

編集後記・奥付

| | |
|-----|---|
| 雑誌名 | 真実心 |
| 号 | 35 |
| ページ | 183-(186) |
| 発行年 | 2014-03-10 |
| URL | http://id.nii.ac.jp/1108/00000476/ |

編集後記

3・11以降、日本は「絆」ばかりです。「つながる」ことが大層重要視され、Facebookに代表されるSNSは言うに及ばず、「LINE（ライン）」などの「つながる」ツール類が世を席巻しています。でも、少し待ってください。「つながる」こと自体に果たして本当に価値があるのでしょうか。もちろん、3・11以前にも、人と人との関係を重視するさまざまな文脈が存在しました。友情や、愛情や、連帯や、思いやりやらが、場面に応じて各種各様に語られました。でも、3・11以降少し色合いが変わったように感じます。

ネット上で（つながった⇨知り合った）人たちが、仲間はずれを作って虐めてみたり、交換ストーリーを試みたり、一緒に自殺したり、人殺しを企てたりしています。彼らは何かを間違えたのでしょうか。つながり方を間違えたのでしょうか。ある政治家が言ったように、「少し常識の範囲を逸脱した」だけなのではないでしょうか。そうでなく

でも、「つながる」ために、そのためだけに、一日の大半をスマホやケータイにしがみついている状態は、人の健全なありようなのでしょうか。

仏教では四諦しだいということを説きます。先ず苦諦くたいで、自らが置かれている現実を正しく認識するようにと言います。ついで集諦じゅうたいで、その現実が正しく自分自身の選えらび以外の何ものでもないことを自覚するように迫ります。誰のせいでもない。何に責任があるのでもない。他ならぬ自分自身が今のこのわたしを選び取ったのです。さて、ではわたしはどうなりたいのでしょうか。そのことを滅諦めつたいで考えます。わたしはそもそもどのような生きたいのか。詰まるところ何を目指して生きるのか。それを見定めるのが滅諦です。その上で初めてそれに向かって進むのが道諦どうたいです。目標をしっかりと見据えて、それに向かって進みます。意味があるのはその目的です。

だからこそ、わたしたちはスローガンに騙されてはいけません。「絆」それ自体に価値があるわけではありません。大義名分に踊らされてはなりません。世の中が、何事か一色になっているときには、警戒が必要です。わたしたちは、ややもするとそういった類いのものに自らを誤魔化してしまいます。楽だから……。そして、ひとたび

自らを納得させてしまうと、あとは坂道を転がり始めるのです。加速がつくと踏みとどまるのは容易なことではありません。済し崩しに本当に大切なものを置き去りにしてしまいます。

いま自分が何をしているのか、何をしようとしているのかを、時には（できればその度ごとに）確かめて欲しいと思います。自分を見失いそうになったら、この宗教講座のお話を思い起こしてください。何が本当に大切なことであるのかを、必ずや語りかけてくれることであろうと思います。

最後になりましたが、ご講話をいただいた講師の方々には、ご多用の中原稿にお目通しいただきありがとうございます。衷心より御礼を申し上げます。（編集子）

追記・・

これを書いているときに（時はソチオリンピックの只中です）、女子モーグルの選手がとて素晴らしい言葉を言ってくださいました。「親があつて、師があつて、友達があつて、今のわたしがあつた」と。ご紹介しておきます。